日本海洋学会2015年度第5回幹事会議事録(案)

日時：2015年11月16日（月）13：30～18：25

場所：パレスサイドビルマイナビルーム2F-U

出席者：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、川合、鈴村、津田、東塚、原田、山中、事務局毎日学術フォーラム（小野、平坂）

1. 審議事項
2. 議事録承認（伊藤幹事）

　2015年度第4回幹事会ならびに秋季評議員会の議事録を確認し、幹事会議事録を承認した。評議員会議事録は、評議員に回覧の後に承認することとする。

1. 入退会について（東塚幹事）

　2015年8～9月の入退会を承認した。9月現在の会員数は1726名。

1. シンポジウムの後援・協賛などについて（東塚幹事）

　7件の後援・協賛について承認した。

1. 募集・推薦などの依頼について（東塚幹事）

　公募・推薦7件、シンポジウム・講演等4件、その他4件についての通知依頼があり、適宜ML配信などの対応を行ったことが報告され、承認した。

1. 2016年度春季大会シンポジウム開催について（鈴村幹事）

　シンポジウム7件、ナイトセッション2件、ポスターイベント1件について承認した。日本プランクトン学会主催のシンポジウムにおける関連企業の展示もあわせて承認した。

1. 2016年度青い海事業への申請事業の採択について（鈴村幹事）

　前回の幹事会で海洋環境委員会から推薦のあった2件の助成対象候補について、1件については事業の主たる部分が来年度であるが、現時点で新たな提案がないため、承認した。本年度中に予算の一部執行を伴なう事業実績を上げることを要望することとした。

　本年度から、応募受付を随時とした変更による効果・影響を勘案し、予算執行の期限などを含む来年度募集要綱案を海洋環境委員会で作成し、次回の幹事会で審議に諮ることになった。また採択された者には、予算の使途が明瞭になるよう、事業終了時に領収書のコピー等の証票を提出してもらうこと、年度をまたいだ助成については事業終了後に会計報告を提出してもらうこととした。

1. 賞選考委員半数改選時における過去5年間の委員名簿添付の有無について（山中幹事）

　2013年度の選挙より、過去5年間の委員名簿を添付してきた。選考委員の固定化につながるという意見があるため、今後継続するかどうかについて議論した。名簿は「委員の負担は大きく、固定化を避けるためである」という目的をより明確化した文章を添えて名簿添付を継続することとなった。

1. JOの投稿規定・Open Accessについて（石坂編集長）

　Open Accessへの要望があることから、その対応について議論した。著者が追加料金を払えばOpen Accessにできるシステム「Open Choice」や、雑誌全体をOpen Accessにする方法がある。まずはOpen Choiceについて採用を検討することとなった。ただし、著作権が著者に移るため、JO編集委員会で投稿既定の改定を検討してもらうこととなった。

　DOIのついたOpen Discussion論文でリジェクトされた内容とほぼ同じものが投稿されたが、改訂を推奨したことが報告された。公開されているものと同じ文章・図は掲載できないということを通知するため、JO編集委員会で投稿規定の改定を検討することとした。

　投稿規定に特集セクションに関する規定を追加することが提案され、基本方針を承認した。

　Short Contributionについて、これまで曖昧であった判断基準について議論した。ページ数を規定してはどうか、いっそ不要であるなどの意見が出され、JO編集委員会で引き続き検討することとなった。

1. その他
   1. 幹事会資料の公開について（市川幹事）

　幹事会の際の配布資料をウェブで公開しないと、議事録だけでは一般会員にはわからない箇所があるという意見が出された。集会担当幹事と広報担当幹事とで対応を検討することとした。

* 1. 評議員会若手枠について（市川幹事）

　若手支援として評議員会に数名の若手枠を設けてはどうかという意見が出され、今後の検討課題とすることとなった。

1. 報告事項
2. 会長（日比谷会長）

　2017年度春季大会を、AGU-JpGU 合同大会へ合流して開催することについて、評議員会での議論も紹介しつつ、メール配信やウェブサイトへの掲載により会員への周知を行ったこと、賛成意見が4通届いたことが報告された。

　JpGU代議員選挙で、海洋学会から10人が当選したこと、続いてセクションプレジデント、理事、理事長の選挙が予定されていることが紹介された。

　JpGU連合大会において、海洋学会のブースを出し、学会紹介、若手勧誘、教員や学生への宣伝を行う予定であることが報告された。

　大型研究計画について、改訂状況調査へ提出した提案に対して届いたコメントが紹介された。他学会との連携強化のため、水産海洋学会・水産学会・古生物学会などと相談中であり、練り直したものを新規提案として提出する予定であることが報告された。

1. 副会長（神田副会長）

　JpGU連合大会への合流について、会員からの意見を聞く機会を設けたいとの提案がなされ、広報幹事がウェブサイトに掲示板を設置することとなった。

　JpGUのセクションプレジデント選挙への投票の呼びかけを行う予定であることが報告された。

1. 庶務（東塚幹事）

　年末年始にかけての学会予定を作成したこと、春季大会要旨締め切りが12月18日であることが報告された。

1. 会計（河野幹事代理川合幹事）

　2015年度秋季大会について学会口座と大会口座のやりとりが全て終了したことが報告された。

1. 編集
2. JO（石坂編集委員長）

　特集号を発刊したこと、特集号が続いたためか、投稿数が少ないことが報告された。

　Springerの方針変更により、印刷会社が変更されること、別刷注文とプリント版でのカラー使用の注文がユーロ建てでの支払になること、別刷最小単位が50部から25部になること、無料別刷のかわりにe-offprintを選択できるようになったことが報告された。

転載許可申請があったことが報告されたが、今後は幹事会に資料を示すこととなった。

1. 海の研究（市川編集委員長）

24巻5号を発行したこと、11月15日付けで発行する第24巻6号については作業が遅れており、冊子は12月初旬に納品・発送の予定であること、転載許諾と論文受理証明を各1件承認したことが報告された。今後、編集委員長が転載許諾の詳細を幹事会に報告することが確認された。また、過去に海の研究に掲載された論文の中から、学生会員などに向けた推薦論文リストを作成し、これをウェブサイトに掲載することが報告された。

1. ニュースレター（津田編集委員長）

No. 5-3を発行したこと、次の締め切りが1月末であることが報告された。

1. 研究発表（鈴村幹事）

　2016年度春季大会について、25件のセッション提案があったこと、うち1件が取り下げられたこと、これらをプログラム編成委員会においてメール審議を経て採択したことが報告された。

　ジェネラルセッションについて、プログラム編集委員会をコンビーナーとして「海洋物理」「海洋化学」「海洋生物」という3つを立ち上げる計画が報告されたが、分野を区切らず「海洋学一般」とした方がよいという意見が出され、大会実行委員会に伝えることとなった。

1. 選挙（山中幹事）

　各賞可否投票・賞選考委員半数改選について、今後の予定が報告された。

1. 広報委員会（原田幹事）

　広報委員会を開催し、活動内容を確定したことが報告された。活動内容は、JpGU連合大会でのブース展示、サイエンスカフェのチラシや出版書籍などの販売、若手向けイベント、Webページ若手/一般ページの新設、秋学会でのご当地向け一般シンポジウムの開催、プレスリリースなど。

　学会のパンフレットについて、対象をより一般的にしたバージョンを作成してはどうかという意見が出され、広報委員会で検討することとなった。

1. 海洋環境問題研究会（鈴村幹事）

ナイトセッションを来年の春に開催することが報告された。

1. 海洋環境委員会（鈴村幹事）

次回幹事会で青い海募集要項案を審議に諮る予定であることが報告された。

1. 教育問題研究会（伊藤幹事）

サイエンスアゴラへの参加（200名程度が来訪）、全国海洋教育サミットでのポスター発表予定、春季大会における海洋教育特別ポスターイベントの開催予定、3月の海のサイエンスカフェの開催予定について報告があった。広報委員会から提案された講師派遣事業について、上野会員を中心に検討中であることが報告された。

1. 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

JpGUのフェローを募集中で、締め切りが12月31日であることが報告された

1. 日本科学振興財団（日比谷会長）

研究船と練習船に関する会合があり、研究船の利用について情報交換を行っていることが報告された。

1. 震災対応（神田幹事）

11月28日に水産・海洋学研究連絡協議会主催のシンポジウムがあること、12月21日に日本原子力学会主催の学協会情報連絡会に参加予定であることが報告された。

1. ブレークスルー（小畑幹事代理東塚幹事）

11月7日の日本航海学会講演会において、日本航海学会海上交通工学研究会のセッション「北極海航路の利用と極域等における観測技術の実際」を共催したことが報告された。

1. 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

11月27日に会合があり、伊藤幹事が出席することが報告された。

1. 若手支援（神田幹事）

近年の大会期間中に開催してきた若手懇談会について、貴重な意見交換の場であるため、制度化を検討していることが報告された。

1. 海洋観測ガイドライン編集委員会（河野幹事代理川合幹事）

　日本語版を公開したこと、英語版と追補版の発刊に向けて準備中であることが報告された。

1. 会計年度・事業年度検討WG（仮）（日比谷会長）

WGの活動をこれから開始すること、神田副会長、小畑、東塚、伊藤、河野、斎藤、山中、事務局２名をメンバーとして、主にテクニカルな面について議論することを確認した。

1. 2018年度以降の大会について（日比谷会長）

2018年度以降の大会について、今後幹事会で議論していくべき検討事項を確認した。JpGU連合大会への合流を続けるべきか、その場合は各種委員会、総会、シンポジウムなどをどうするのか、他学会との共催シンポジウムをどうするのかなどが挙げられた。また、連合大会に合流する場合、会員がスムーズに移行できるようなソフトランディング、若手やシニア向けイベントの企画、秋の大会の役割強化が必要であるとの意見が出された。これらについて、今後、会員からの意見や他学会の情報などを集めながら、議論を重ねることとなった。また、2017年については、総会とシンポジウムを春に開催する必要があること、会費が得られないため、純粋な支出になることを確認した。

次回幹事会は1月に開催する。